

はじめに / 国立・国定公園の現状 / 国立・国定公園に関する課題

国立・国定公園が目指すべき姿

国立・国定公園は、我が国のすばらしい自然の風景地を守り、次世代に伝えていくもの。公園での体験を通じて国民の豊かな心を育てる。国土の保全上の観点、また、文化的観点からも国の基盤をなすもの。

国土全般を評価し直して適切に配置した上で、国民全体で守り利用していく仕組みを構築。また、国際的にもPRし、諸外国の模範となることを目指すべき。

国立・国定公園の指定に関する提言

□ 「すぐれた自然の風景地」の評価の多様化への対応

時代に応じて高く評価される自然の風景は多様化していることから、現在のニーズに照らして、「照葉樹林」、「里地里山」、「海域」等について、評価を進める。具体的には、奄美群島、やんばる地域について、国立公園指定を視野に入れてより詳細に評価。

□ 国民の利用の視点に立った公園指定

国立・国定公園の存在の意義、多面的な役割を国民にわかりやすく発信。その観点からの区域の見直しも必要。

□ 国立公園と国定公園の役割の明確化

国立公園は我が国を代表する自然の風景地として厳選。国定公園は、地域の自然風景地を保全する役割も担うことも検討。

□ その他

生態系ネットワークにおける役割を考慮して配置を検討。

国立公園の管理運営に関する提言

- 地域制国立公園の管理運営のあり方 -

地域制自然公園は、多くの関係者の協力によって充実した管理運営を行うもの。特に、地域との連携は重要であり、国立公園が地域にとって重要な存在となるよう、地域振興にも配慮した適切な利用を推進。

協議会等による関係者の参画による管理運営の手法等について提言。

< 提言項目 >

- 公園の提供するサービスの明確化
- 多様な主体の参画による計画策定と管理運営
- 科学的データ整備、評価システム及び順応的な管理運営
- 利用の推進と地域振興
- 周辺地域との連携
- 国民・住民に対する説明責任
- 環境省の体制整備

提言をまとめるにあたって